

2020年1月24日 発行

JSS 特別レポート

JSS Special Report

苛烈な「麻薬戦争」下で殺人が3年連続過去最多 (メキシコ：犯罪)



株式会社ジェイ・エス・エス

危機管理コンサルティング事業本部

契約企業様向けウェブサイト：<https://www.jss-ltd.co.jp/rmc>

苛烈な「麻薬戦争」下で殺人が3年連続過去最多 《メキシコ：犯罪》

2018年12月に就任した左派のロペス・オブラドール大統領は、文民統制の新治安部隊「国家警備隊（GN）」の創設を柱とする治安対策を推進しているが、麻薬組織間の抗争多発などによって2019年の全国の故意殺人の発生件数は前年比1.0%増の2万9,401件、被害者数は3万4,582人に達し、いずれも過去最多記録を更新した。

さらに昨年10月以降、各地で麻薬組織による重大事件が続発し、政府と治安当局の威信が揺らいでいる。

現政権下で治安が劇的に改善する見込みは薄いので、麻薬組織絡みの銃撃戦等への巻き添え被害防止策を継続することが肝要である。

1. 殺人が3年連続で過去最多記録を更新

メキシコでは、同国最大の麻薬組織「シナロア・カルテル（CDS）」と、近年同組織に比肩するほどに勢力を伸長させた「ハリスコ新世代カルテル（CJNG）」をはじめとする麻薬組織が凄惨な抗争を繰り広げており、取締りに当たる治安部隊との激しい銃撃戦も続発している。

政府の犯罪統計に基づく2015年～2019年の主な犯罪の発生件数は次表のとおりである。2019年の全国の故意殺人発生件数は前年比1.0%増の2万9,401件に達し、3年連続で過去最多記録を更新した。

【 全国の主な犯罪の発生件数（2015年～2019年） 】

罪 種	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	対前年比
故 意 殺 人	16,121件	20,151件	25,036件	29,100件	29,401件	+1.0%
フェミサイド（注）	411件	602件	741件	891件	976件	+9.5%
誘 拐	1,061件	1,128件	1,149件	1,329件	1,322件	-0.5%
：身代金目的	733件	833件	849件	960件	1,104件	+15.0%
：短期拘束型	6件	6件	6件	296件	153件	-48.3%
：その他の誘拐	322件	289件	293件	73件	65件	-11.0%
強 姦	10,365件	10,898件	10,728件	12,360件	13,377件	+8.2%
傷 害	139,784件	137,151件	152,273件	145,249件	154,366件	+6.3%
恐 喝	5,072件	5,273件	5,812件	6,432件	8,266件	+28.5%
詐 欺	57,417件	58,446件	60,650件	63,048件	72,803件	+15.5%
強 盗	175,516件	188,500件	270,689件	280,852件	276,817件	-1.4%
：住居押込み強盗	8,280件	8,471件	7,647件	6,861件	7,894件	+15.1%
：対商業施設強盗	23,753件	26,384件	50,223件	52,123件	54,896件	+5.3%

：対金融機関強盗	373件	359件	354件	247件	340件	+37.7%
：自動車強盗	40,668件	40,746件	57,808件	65,948件	58,626件	-11.1%
：バイク強盗	5,150件	5,518件	8,913件	10,653件	10,525件	-1.2%
：貨物車両または貨物強盗	5,192件	6,400件	9,068件	10,494件	9,785件	-6.8%
：対歩行者強盗	46,999件	46,107件	68,785件	70,308件	63,421件	-9.8%
：その他の強盗	45,101件	54,515件	67,891件	64,218件	71,330件	+11.1%
窃盗	402,887件	450,148件	506,761件	487,452件	463,370件	-4.9%
：住居侵入盗	78,647件	78,801件	83,143件	75,737件	72,595件	-4.1%
：対商業施設窃盗	42,078件	51,867件	56,867件	54,404件	55,022件	+1.1%
：対金融機関窃盗	241件	213件	181件	147件	110件	-25.2%
：自動車盗	104,397件	111,838件	121,100件	112,039件	91,003件	-18.8%
：バイク盗	10,724件	16,697件	22,991件	25,313件	24,651件	-2.6%
：貨物車両または貨物盗	1,549件	2,199件	2,371件	1,869件	1,666件	-10.9%
：対歩行者窃盗	15,513件	24,538件	21,133件	20,648件	19,862件	-3.8%
：その他の窃盗	149,738件	163,995件	198,975件	197,295件	198,461件	+0.6%

(注) フェミサイド：男性による性差別に起因する女性の殺害（家庭内暴力等）。

また、2019年の全国の故意殺人被害者数は前年比2.5%増の3万4,582人に達し、こちらも過去最多となった。

2019年の全国31州および首都メキシコシティの故意殺人の発生件数、前年比、発生率（人口10万人当たりの年間発生件数）は次表のとおりである。

[全国31州・首都の故意殺人の発生件数、対前年比、発生率（2019年）]

地域	発生件数	対前年比	発生率	地域	発生件数	対前年比	発生率
コリマ州	660件	+7.1%	85.4件	ヌエボレオン州	889件	+19.2%	16.1件
バハカリフォルニア州	2,600件	-7.0%	72.7件	ベラクルス州	1,358件	-9.3%	16.0件
チワワ州	2,167件	+19.9%	57.6件	サンルイスポトシ州	453件	-0.9%	15.9件
モレロス州	911件	+31.5%	45.0件	メキシコシティ	1,400件	+2.4%	15.5件
グアナフアト州	2,775件	+6.4%	45.0件	メキシコ州	2,536件	+7.9%	14.7件
ゲレーロ州	1,583件	-28.8%	43.4件	ナヤリット州	168件	-48.9%	13.2件
キンタナロー州	685件	-10.2%	40.7件	トラスカラ州	151件	+21.8%	11.1件
ソノラ州	1,062件	+42.6%	35.0件	バハカリフォルニア・スル州	81件	-50.0%	10.3件
ミチョアカン州	1,653件	+23.5%	34.5件	イダルゴ州	287件	+41.4%	9.4件
サカテカス州	510件	-9.1%	30.8件	チアパス州	525件	-6.6%	9.3件
シナロア州	822件	-14.6%	26.3件	ドゥランゴ州	150件	-16.7%	8.1件
オアハカ州	1,010件	+2.7%	24.5件	ケレタロ州	178件	-1.1%	8.0件
ハリスコ州	2,030件	+3.5%	24.4件	カンペチェ州	73件	+5.8%	7.4件
タバスコ州	564件	+11.0%	22.2件	コアウイラ州	222件	-3.1%	7.0件
タマウリパス州	666件	-21.7%	18.4件	アグアスカリエンテス州	91件	+21.3%	6.4件
プエブラ州	1,108件	+0.3%	16.9件	ユカタン州	33件	-31.3%	1.5件
				全国	29,401件	+1.0%	23.2件

発生率に関しては、太平洋側の主要港の一つであるマンサニージョ港を擁する西部コリマ州が全国32行政区分の中で最も高く、4年連続でワースト1位となった。

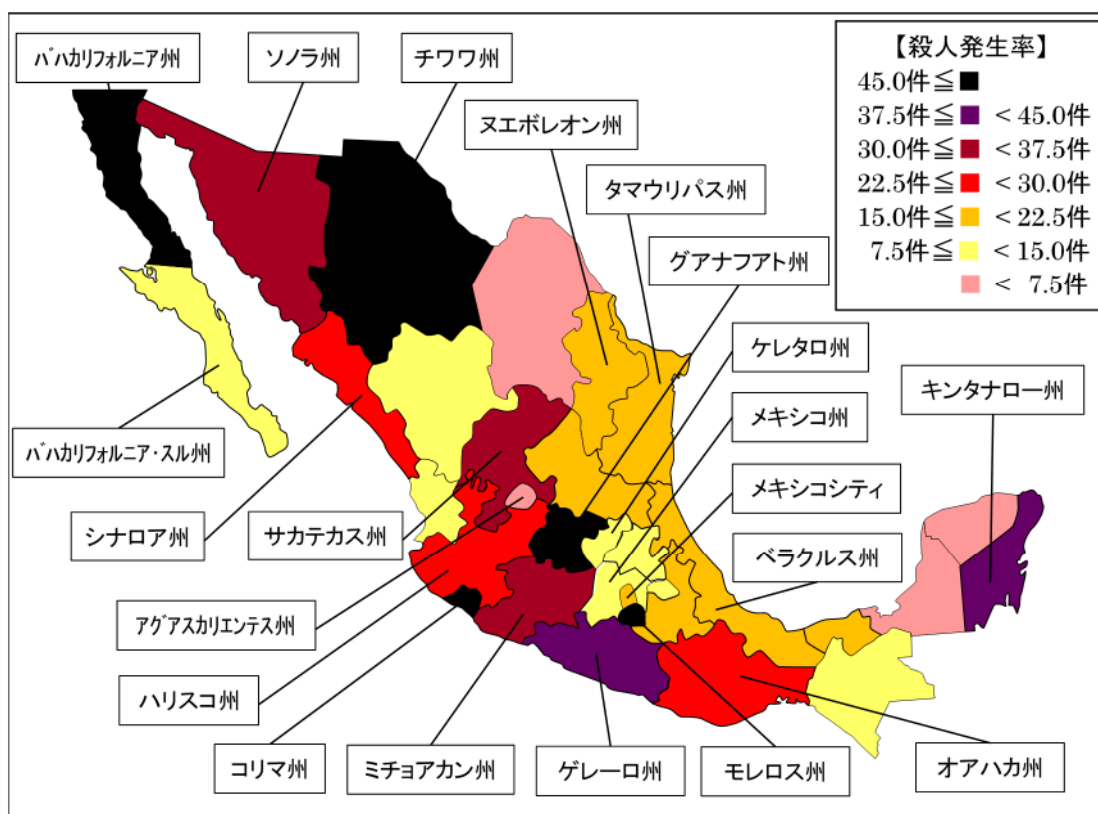
発生件数に関しては、自動車関連を中心に多数の邦人企業が拠点を設けている中部グ

アナフアト州が最多であった。このほか4州が2,000件を超え、メキシコシティと6州が1,000件を上回った。

発生件数の対前年比の増減に関しては、メキシコシティと16州で増加し、北西部ソノラ州が42.6%増と最も増加率が高かった。一方で、15州は前年比で減少し、北西部バハカリフォルニア・スル州は半減した。

前表の殺人発生率に基づいて全国行政区分別に色分けしたマップは次図のとおりである。

〔 全国行政区分別の殺人発生率マップ（2019年） 〕



2. 政府と治安当局の威信を失墜させる凶悪事件が続発

昨年10月以降、各地で麻薬組織による重大事件が次のとおり続発し、政府と治安当局が一部の地域で麻薬組織による暴力を制御不能になっていることを国内外に印象付けた。

(1) ミチョアカン州で麻薬組織による騒乱

10月14日午前7時30分頃、南西部ミチョアカン州アギリージャ市郊外のエル・アグアへ村で、ピックアップ車など4台に分乗した州警察部隊が防弾仕様のピックアップ車5台に分乗した約30人からなる武装集団に襲撃され、警察官42人のうち13人が死亡、9人が負傷し、車2台に放火された。

事件現場には「テンプル騎士団、ピアグラス、トロジャーノス、チョコミレス・デ・テペケを支援している全ての腐敗したミチョアカン警察は不幸な結末を迎えるだろ

う。敬具。ハリスコ新世代カルテル (CJNG)」とのメッセージが残されていた (固有名詞は全て麻薬組織名)。

(2) シナロア州で幹部奪還を目的とした騒乱

10月17日午後3時頃、北西部シナロア州の州都クリアカンで、同州を拠点とする「シナロア・カルテル (CDS)」が、国軍と「国家警備隊 (GN)」に逮捕された幹部の奪還を目的に、各所で治安部隊と銃撃戦を繰り広げた。また、兵士を誘拐したり、刑務所から囚人を集団脱走させたほか、軍や警察の応援部隊の到着を妨害するため、放火した車両などで19か所以上の道路を封鎖した。同日、政府と治安当局はCDSの圧力に屈服するかたちで幹部を釈放した。同幹部は、米国で収監中のCDSの首領ホアキン・グスマン (通称：エル・チャポ) の息子オビディオであった。

政府の公式発表によると、市民1人、GN隊員1人、CDSメンバー5人、囚人1人の計8人が死亡、19人が負傷した。ただし、現地メディアは、死者14人、負傷者21人と報じている。

同事件により、2016年にエル・チャポが逮捕され、2017年に米国に送還されたことで弱体化したと見られていたCDSは、拠点地域における組織力が健在であることを示した。一方、当局は逮捕作戦を日中に強行し、結果として市民を巻き込む流血の事態を招き、挙げ句の果てに逮捕したオビディオを釈放するという大失態を演じた。

(3) ソノラ州で在墨米国人の車列襲撃

11月4日午後、北西部ソノラ州東部のチワワ州との境界付近で、在墨米国人モルモン教徒の乗る車3台が、チワワ州を拠点とする麻薬組織「フアレス・カルテル」の殺し屋部隊「ラ・リネア」に襲撃され、女性3人と子供6人の計9人が殺害された。

一行は大型SUV3台で移動していたが、途中で1台がパンクしたため、女性1人と子供4人を車ごとその場に残し、他の2台はスペアタイヤを調達するため一旦その場を離れた。

2台が戻って来たところ、残されたSUVは女性や子供ごと燃やされており、2台はその場を離脱したが、待ち構えていた武装グループに強制的に停車させられた後、激しい銃撃を受け、女性2人と子供2人が殺害された。他に子供7人がいたが、茂みに隠れて難を逃れた。

事件当初、一行が麻薬組織の関係者と誤認されたとの情報があった一方、遺族の一部は「麻薬組織が一行を狙って襲撃した」などと主張している。

(4) コアウイラ州で麻薬組織と治安部隊の大規模衝突

11月30日正午頃、北部コアウイラ州ビジャ・ウニオンで、北東部タマウリパス州を拠点とする「ロス・セタス」の一派「北東カルテル (CDN)」が市庁舎を襲撃したことを切っ掛けに、翌12月1日にかけて同組織と治安部隊との間の銃撃戦が断続的に

発生し、警察官4人、市民2人、CDNメンバー19人が死亡した。

車約25台に乗った約150人のCDNメンバーが襲撃に参加したと見られている。

また、狩猟目的で訪墨していた米国人2人がCDNに一時拉致された。犯行グループは被害者達の大型SUVの強奪を目的としており、逃走後に被害者2人を車ごと解放した。

こうした事件の続発によって政府と治安当局の威信が失墜している状況下で、麻薬組織が大胆な襲撃等を一層躊躇しなくなることが危惧される。

3. 「ハリスコ新世代カルテル (CJNG)」が中部で攻勢を激化

西部ハリスコ州を拠点とする「ハリスコ新世代カルテル (CJNG)」は、近年急激に勢力を拡大しており、拠点の周辺地域のみならず、米国境に接する北部、燃料盗の対象となるパイプラインが集中する中部、主要な港湾のある太平洋およびメキシコ湾の沿岸地域などで他の麻薬組織と抗争を繰り広げている。

特にCJNGは最近、邦人企業の集中する中部グアナフアト州で、州中部サンタローサ・デ・リマ (ビジャグラン市に属する) を拠点とし、首領ホセ・アントニオ・イエペス (通称: エル・マロ) 率いる「サンタローサ・デ・リマ・カルテル (CSRL)」に対して攻勢をさらに強めている。

[CJNGによるCSRL等に対する襲撃事件例 (2019年12月11日~2020年1月15日)]

- 12月11日: 夜、州東部ビジャグランの市警察施設にCJNGの殺し屋部隊「グルポ・エリテ (エリート部隊)」が押し入って警察官3人を射殺し、4人を誘拐した。その後、同グループは誘拐した警察官4人を映したビデオ声明を公開し、4人がCSRLに協力していると主張した。13日朝、ビジャグラン郊外でビニール袋に入った4人の切断された遺体が発見された。
- 12月29日: 未明、州南部サルバティエラで、黒いビニール袋に入った2人分の切断遺体が発見された。ビニール袋には、「我々はエル・マロを消し去るためにサルバティエラにやって来た」などと書かれたCJNGによるメッセージが貼られていた。
- 1月11日: 午後3時頃、州東部セラヤ北郊ペラバカスの教会で催されていた結婚式に「グルポ・エリテ」が押し入り、男女2人を射殺して逃走した。事件後、同グループが録音声明を出し、その中でエル・マロの姉 (または妹) とCSRLの幹部を殺害したと主張した。また、セラヤ市民に対し、「我々は既にセラヤにおり、お前たちを助けに来た。インターネットやウェブページで奴らを告発せよ。我々は奴らに終止符を打つために来た」などと呼び掛けた。
- 1月15日: 午後4時頃、州南東部タリモロ西郊パナレス・ハマイカの自動車解体工場で、「グルポ・エリテ」が従業員7人を射殺し、CSRLに宛てた犯行声明を残して逃走した。

4. 現政権下での治安改善は見込み薄、巻き添え被害防止策の継続を

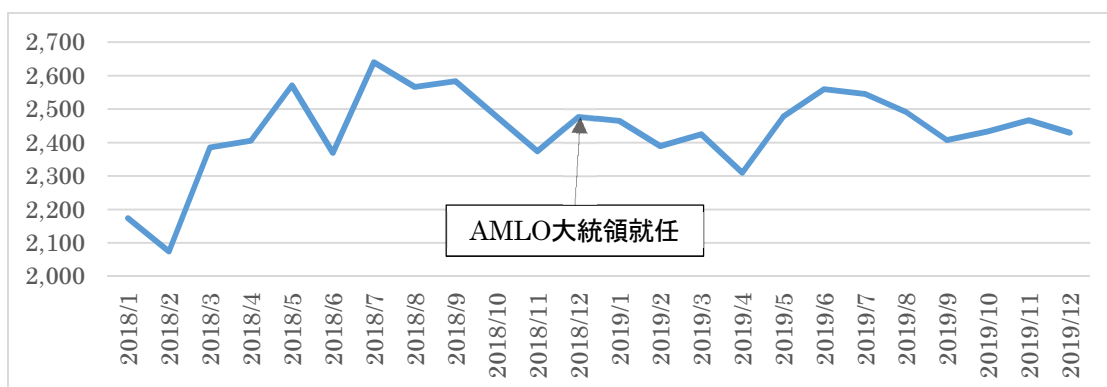
2018年12月に就任した左派のロペス・オブラドール大統領（通称：AMLO）は、「銃弾ではなく抱擁を」をスローガンに、新たなアプローチでの治安対策の必要性を主張し、憲法違反や人権侵害が指摘されている国軍の治安維持活動を縮小させていく方針を採っている。

一方で同大統領は、国軍に代わって同任務に当たる文民統制の新組織「国家警備隊（GN）」を創設したが、初代司令官に退役を控えた陸軍将軍を指名し、国軍と連邦警察からの出向者を中心に組織したことから、「事実上の軍隊である」との批判に晒された。

また、GNを麻薬戦争に投入したり、中米からの不法移民集団の取締りに投入するなどの幅広い運用に関して、「これまでの政権と代わり映えしない」「明確な運用方針が定まっていない」などといった批判がある。

次図のとおり、AMLO大統領の就任前から殺人発生件数は高い水準で推移しており、現在の治安状況の原因を同大統領の治安対策だけに求めることは適切とは言えないが、同大統領の就任後も状況がほとんど改善していないことも確かである。

〔 全国の故意殺人の月別発生件数（2018年1月～2019年12月） 〕



また昨年12月には、カルデロン政権（2006年～2012年）で公安省トップを務めたヘナロ・ガルシア・ルナが麻薬組織に協力していた容疑で米当局に逮捕されたことが象徴するように、メキシコでは各レベルの政治家・当局者と麻薬組織との癒着が根深い問題となっている。

こうした歴代政権から続く負の遺産があることや、米国におけるマリファナ・違法薬物の需要に陰りが見えないことなどからも、AMLO現政権下で治安が劇的に改善する見込みは薄く、特に麻薬組織の活動が活発な地域においては、麻薬組織絡みの銃撃戦等への巻き添え被害防止策を継続することが肝要である。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。